

青研かわらばん

発行所 長岡鉄工業青年研究会 大竹 啓之・金澤 誠・河田 一 優 事務局 新潟県長岡市坂之上町2丁目1番1号
 発行責任者 川口 秀和 小林 史幸・田中 智也・永井 宏明 長岡商工会議所ビル5F
 編集責任者 小西 統之 古川 高志・宮下 玲子・松崎 孝彦 長岡鉄工業協同組合内
 編集者 小笠原 昭範 中條 秀樹 長岡鉄工業青年研究会
 TEL 0258-36-6982
 印刷所 (株)北都 三条市田島2丁目23番3号

新年度をむかえて

長岡鉄工業青年研究会
 平成二十三年度会長 久保 雅 宏



平成二十三年度、長岡鉄工業青年研究会会長を務めさせて頂くことになりました、有限会社 久保鉄工所の久保雅宏です。

一年間よろしくお願ひ致します。去る三月十一日、日本中を震撼させた「東日本巨大地震」で、ご親族並びにお取引先にて被害にあわれました方々には、心からお見舞いを申し上げます。中越地震で被災した私たちも、全国の皆様のご支援のお陰で今日があるのと改めて痛感いたしました。当会においても、この度被災された皆様のお力になれるよう、また一日も早い東北地方の復興のために精一杯努力したいと考えております。

さて、長岡鉄工業青年研究会が発足して四十周年の年でございます。その節目の年で、歴史ある当会の会長を任されることとなり、改めて身の引き締まる思いしております。ものづくりで発展してきたこの長岡の地で、「鉄工所の若者が集まり長岡の為になにかできないだろうか。」その思いで発足して四十年たった今日、諸先輩方の教えを胸に、私たち現役会員も地域貢献の精神を忘れずに、立派な技術者・時期後継者になるべく日々精進、努力を続けております。今年度会長として、一年を通して四十年にふさわしい各事業の立案・運営し、それらを成功させることが私の使命であります。その結果、各事業の中で会員同士が一丸となり絆の再確認をしながら、自己主張と協和をもって成長していかれたらと考えています。当会では、次期社長を見据えた

研修事業や、一つ先の機械技術を学び、ものづくりの後継者の為の工作教室を開催してきました。鉄工青研を次世代に継承していくなかで、当会の歴史を振り返りそこから新しいものを創造することが今後必要だと考えます。若手会員には、四十周年を機に諸先輩方より鉄工青研の歴史を学び、今後の活動の礎にして貰いたいと願ひます。四十周年記念式典では、卒業された諸先輩方を多数お招きしたいと考えております。当会の設立、今日まで存続の感謝の意味をこめ「鉄工青研大同窓会」として、皆様に喜んでいただける記念式典を役員、会員の皆様とともにやりたいと思っております。

一、四十周年記念事業

二〇一一年度を、「長岡鉄工青研四十周年 Y.E.A.R」と称し総務・研修・実行・ものづくり・お祭り各委員会において四十周年に相応しい事業を行う予定です。二〇一一年一月一日には記念式典を計画しております。当日は、卒業されたOB会員の皆様、また当会の活動に御協力頂いております関係諸機関の皆様をお迎えし、「大同窓会」のテーマのもと諸先輩方と現役が一つとなり四十周年を祝いたいと思っております。研修事業においては、記念の講演会を行いたいと思っております。現在我々を取り巻く国内または世界の経済はいまだ暗いトンネルの中にいるものと認識しております。その突破口を見出す為、元氣を出して苦難を乗り越えていけるような鉄工青研らしい演目を考えております。実行の事業としましては十月十五日、四十周年記念ゴルフを予定しております。OB会員の皆様をお迎えして一日汗を流し青研昔話や、情報交換をしながら親睦を深め、OB・現役お互いの顔を知って貰いたいと考えております。実行で行っております肩鉄集めも今年は市内の施設

への寄付はもちろん、東北地方の復興のお手伝いになればと考えております。

二、ものづくり事業

四十周年記念である今年、なにか記念に残るものを作成したいと昨年度中より議論してきました。その結果、後継者育成の意味も含め、「鉄工業の未来を見据え子供たちにもものづくりに興味を持ってもらう」をテーマにしました。子供たちに実際に操作してもらい、製品が出来上がる面白い旋盤型の装置を作成致します。毎年恒例の「ものづくり体験教室」で見て、触って、実際にものづくりの楽しさを体験してもらい、将来長岡の技術屋になって貰えたらと考えています。その他に各大学、関係機関等、ものづくりを通じて連携し技術向上に努めます。

三、地域貢献・交流事業

昨年の他団体交流事業の継続として、柏崎・小千谷の各若手の団体と本年も交流を深めたいと思ひます。本年は当会主催でセミナーを開催し、共に情報交換、技術向上に努めます。

また、地域貢献事業として、諸先輩方並びに会員企業の御協力のもと行われる「肩鉄集め」を本年も実施致します。八月一日には長岡まつり前夜祭にて青研オリジナル神輿、纏で当日の神輿渡御を祭り委員会中心に盛り上げ、青研四十周年もアピール致します。

一年間、これらの事業を柱に当会の運営を行います。これから我々青研メンバーの減少が見込まれます。会員の皆様の事業への積極的な参加を改めてお願い致します。役員会の中でも、皆様が参加しやすい様に年間事業、組織の見直しを行い、この先の時代にあった鉄工青研の基盤整備も進めたいと考えています。一年間御協力宜しくお願ひ致します。

一年を振り返って

長岡鉄工業青年研究会
平成二十二年度会長
川口 秀和



改めまして、平成二十二年度会長を務めました。川口です。本「かわらばん」が発行されている時には無事に平成二十二年度が終わり、無事に久保会長へのバトンタッチが終わっていることと思います。ちょうど昨今の頃、本かわらばんを次年度の会長として書いていたわけですが、その時の心境と、今の心境では驚くほど違います。昨年は、会長として会の運営が務まるのか？等々不安な気持ちで一杯でした。現在は、何とか会長職をやり遂げた充実感で一杯です。

仕事の方も昨今の頃と比較しますと、リーマンショック後の大不況で仕事量が少なく、暇を持て余していた昨今の頃と、納期に煽られてうれしい悲鳴を上げている現在とで全く驚くほど違います。さて、話は変わりますが、私自身、昨年度一年間、会長を務めさせて頂くにあたり、「健康」と声高らかに言わせていただきました。まずもって、体が資本です。体が良くなければ、仕事においてはもちろん、家庭においても満足な成果が得られません。今後も、この「健康」を私の第一フレーズとして行きたいと思えます。おかげさまで、本年も大きな病気もせずに一年間皆勤賞で頑張りました。その「健康」の結果、会長として様々な経験をさせて頂きました。大変な時もありましたが、今後、企業人として成長できたと自負しております。平成二十三年度は鉄工青研四十周年の記念の年です。久保会長の下、皆で一

致団結して周年イヤーを盛り上げていきましょう。私自身も久保会長を支えて頑張ります。

会員の皆様も積極的に事業に参加し、自分を磨き、会を磨き頑張ります。最後にになりましたが、一年間無事に会の運営が出来たのも、三役をはじめ役員また、会員全員の皆様のご協力のおかげだと思います。皆様、本当に有難うございました。

委員会事業報告

総務委員会

委員長 小西 統之

今年度の総務委員会では、例年通り卒業式に始まり、七月の長岡鉄工業協同組合様との交流会、九月の納涼会、十一月の忘年会、二月の臨時総会・新年会、そしてこのかわらばんの配布される総会の六つの事業を中心に活動を行いました。各事業において、大勢の会員から参加して頂きまして誠にありがとうございました。また、毎月の役員会・委員会の設営や総会資料作成等、総務委員会として青研の運営サポートを行ってまいりました。

委員長としての反省点としましては、役員会前の準備不足により役員会の終了時刻が予定より遅くなり、委員会の開始が遅くなることがあったこととお詫びします。

総務委員・会員の皆様には頼りない総務委員長であったかもしれませんが、皆様のご協力のおかげで一年間、総務委員としての活動を行うことが出来ました。この場をお借りしてお礼申し上げます。一年間、ありがとうございます。

卒業式

新入会員の私にとって始めての事業となる『卒業式』が期待と不安を抱えながらも無事に行われました。卒業式は厳格にとりおこなわれ、個々の卒業生からは今後頑張っていく会員へ暖かい激励の言葉を頂く事が出来ました。

懇親会では、新入会員の私にも話し掛けていただき会員の皆様と親睦を深める良い時間になりました。恒例の胴上げには多少驚きましたが男らしい当会の特徴に振れることが出来き入会してよかったです。ありがとうございました。

参加者 六十一名 (宮下 怜子)

長岡鉄工業協同組合との交流会

今回、長岡鉄工業協同組合様と長岡鉄工業青年研究会の初の試みとして交流会が行われました。講演会では、講師の内山様から長岡の鉄工業界の成り立ちについて、貴重な当時の資料を交えながらお話しをしていただきました。また、懇親会においても終始和やかな雰囲気で行っていき、講演・懇親ともに有意義な交流会となったことと思います。

参加者 三十名 (小林 史幸)

納涼会

例年にくらべ温暖化の影響で異常な暑さが続く中、多数の方に参加していただきありがとうございます。大変に盛り上がりました。経済不況など悪いニュースばかりですが、暑さで夏バテ気味になった体に今後の活力源になる有意義な時間が過ごせたかと思えます。

参加者 三十二名 (大竹 啓之)

忘年会

十一月二十七日に七福にて忘年会を行いました。昼の部に行ったものづくり体験教室の後で行い、普段の忘年会よりも

会員の親睦が深まったのではないかと思っています。来年もまた、このような忘年会が行われる事を願っております。

参加者 三十五名 (河田 一優)

臨時総会・新年会

平成二十三年二月四日(金)、長岡グランドホテルにて臨時総会・新年会を行いました。

臨時総会では、次年度会長、副会長、各役員の出がけが行われ、無事承認されました。その後の新年会は、中越鋳物青年研究会と合同で行いました。多くの来賓、歴代会長にも参加いただき、交流をよりいっそう深めることが出来、とても有意義な時間でした。また、森長岡市長の予定より早い登場で、慌てたところもありましたが、無事に進めることが出来ました。来年も右肩上がりで乾杯が出来たらと思います。



参加者 八十名(来賓・鋳物青研含む)
(河田 一優)

第三十九回定期総会

平成二十三年四月九日(金)川別館にて行います。

研修委員会

委員長 難波 博繁

今年度の研修委員会では、「テーマ」として社長の仕事とは？を掲げ、特に仕事を取ってくるには？に重きを置いた講演会やセミナー、そして自社をPRすることを一番の目的に研修旅行に行つてま

いりました。今現在我々を取り巻く環境は非常に厳しく、また急速に進んでいるグローバル化の波をどのように捉え、いかに動かしていくか今後私たちの手腕に大きく懸かっていると一言でも過言ではない時代であります。とは言ってもさすがに海外に目を向けるのではなく、まずやることは、いかに自社を理解し、自社の強みは何かを明確に伝えるようにしなければいけません。そしてその後いかに外に発信していくか。そこでまず、我々が将来仕事を取ってくるにはどのようなことが大事で、どのような事をしていかなければいけないのかという観点から営業の基礎を講演会で学びました。次に、我々が目指す課題として人前に出ても、あがらずスムーズに話せる方法を習得し、将来のあらゆる営業活動にも生かせるようにとあがり症克服話し方セミナーを開き、まともとして、自社または自分をPRすることを目的にプレゼンテーション入門セミナーを開催させていただきました。

三つの事業を学んだ上、研修旅行ではある企業様の情報交換会に参加させていただきました。その学んだ三つの事業を実践してまいりました。一年という短い期間ではありましたが、事業を滞りなく終えられたのも会長をはじめ、副会長、各委員長、また研修委員の皆様、そして最後に研修事業に出席していただいた会員の皆様の御協力のお陰とっております。一年間、本当にありがとうございました。

●「講演会」

平成二十二年六月十一日、長岡グラランドホテルにて、アシストラスト・コンサルティング 代表 山口 亮様をお招きし、営業に特化した講演会を開催いたしました。今回の講演会では特に、新規開拓を含めた営業力の習得について解説していただきました。

今後自分たちが会社経営に携わっていくなかで、企業が存続していくためには技術ももちろんモノづくりとしては大事ですが、営業活動の強化なしにはありえないと痛感させられました。今回の講演会を機に、新規開拓を含めた自社の営業活動を見直し、今後を生かしていければと思います。

参加者 講演会 三十二名
懇親会 三十名 (佐藤 康一)

●「あがり症克服話し方セミナー」

平成二十二年八月二十七日、長岡グラランドホテルにて、(株)MCカンパニー 代表 加藤 弘美様に講師をお願いし、あがり克服をテーマにお話をしていただきました。今回のセミナーでは腹式呼吸や大きな声を出す練習、人前であがらずに話すトレーニングなどを交えた実践形式のセミナーをしていただき、私自身あまり人前で話すのが得意な方ではないので、聞き入ってしまうほど面白い話でした。これからの会社経営に少しでも反映できたらと思います。最後になりましたが、お忙しい中今回参加してくださった方々には大変感謝しております。ありがとうございました。

参加者 セミナー 二十五名
懇親会 二十五名 (反町 惣夫)

●「プレゼンテーション入門セミナー」

平成二十二年十月二十八日(木)、長岡鉄工団地協同組合様の事務所にて、(株)広報しえん 代表取締役 山岸 昌彦様を講師に迎え、プレゼンテーション入門セミナーを行いました。

「日常の挨拶や会話ですでにプレゼンをしている」と始まり、どのようにしたら相手に伝えることが出来るのか、講師

の体験談や、身近なエピソードを交え、御講義いただきました。今回のセミナーを受け、今後の営業活動や顧客の新規開拓に生かしていけるのではないかと思うとともに、参加者一人一人が自社の強み、弱み、そして熱い思いを再確認できたのではないかと思います。

参加者 十一名 (小林 宏)

●「研修旅行」

平成二十二年十二月十日、十一日、東京企業視察訪問・NCネットワーク様の情報交換会参加を目的とし、研修旅行に行ってきました。一社目の見学先では、日本フォーミング(株)様に伺いました。フォーミング加工を私は初めて拝見させていただきましたが、日本でまだこういう仕事が残っている事にびっくりしました。独自の成型技術で高精度、ユニークな形状の部品を生産しており近年のコストパフォーマンスに対応できる様にさまざまな工夫が施されておりました。二社目に橋本精密工業(株)様へ伺い、金属プレス加工を通じて高精度部品の生産現場を見させていただきました。関東圏の工場

の姿を目の当たりにし、中国の経済が大きく経営に左右される現状の厳しさがひしひしと伝わってきました。中国でも工場を運営されており、日本産業の空洞化に伴い、生き残っていく為にいろいろなお話をお聞きする事ができました。見学三社目は(株)浜野製作所様を訪問し、工場と浜野社長様よりプレゼンを拝見させていただきました。浜野社長様の経営に対する熱い想いが印象的でした。工場全焼を乗り越え、経営理念「おもてなしの心」



を常にもってお客様・スタッフ・地域に感謝・還元し夢(自己実現)と希望と誇りを持った活力ある企業を目指そう。まさに社長様の想いが会社全体に行き渡っておりました。そして一日の締めくくりにNCネットワーク様の情報交換会に参加させていただき、多くの経営に携わる方々のお話をお聞きいたしました。また、私たちも、自社の発表を二分程度、皆さんのまえてお話しする機会をいただきました。関東圏の企業様のお話の中で、来年の見通しをお聞きし、これからは知恵を出しパートナーシップ、コストダウン、ハイスピード、エンジニア、このキーワードが今後の顧客満足に繋がりが未来を見据えて存在価値を明らかにしていかななくてはいけないという事に気づきました。最後に皆様の御協力を賜りまして大変意義のある研修旅行となりました事を深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

参加者 十一名 (山村 誠)

実行委員会

委員長 安藤 学

今年度の実行委員会では、四つの事業を行いました。春の卒業生追い出しコンペから始まり、夏の健康増進イベントにおいては、会長所信表明の健康をテーマにした初の事業。又、中越鋳物青年研究会からも多くの方に参加していただき両会の親睦も深まったかと思えます。地域社会への貢献事業である肩鉄集め、秋季ゴルフコンペにおいては、多くの青研OBの方から参加していただき、次年度四十周年時には更に多くの方が参加していただけるのではないかと思います。又、一二月に行う肩鉄基金の贈呈式へ行かれたことがない方は、ぜひ参加してみてください。

ださい。最後にこの様な機会を与えていただいた会長、副会長、支えてくれた委員の方々、事業に御協力、御参加いただいた青研OBの方々、会員の皆さんありがとうございました。

●卒業生追いで出しコンペ

四月二十四日(土)に小千谷カントリークラブにて、恒例の卒業生追いで出しコンペを行いました。今回は、コンペ二名・表彰式三名の卒業生に参加して頂きました。早朝からのスタートでしたが様々なプレーで卒業生との親睦が深められ、表彰式でも卒業生の方々の豪快な立ち居振る舞いに盛り上がりました。今後も卒業生と様々な交流をしたいと感じた一日でした。



参加者 ゴルフ 二十名
懇親会 二十五名

優勝チーム
春山 博 藤田 修
安田 英生 野本新太郎
(毛利 聡)

●健康増進イベント



平成二十二年七月十日(土)新産体育館にて健康増進イベント二〇一〇「いい汗かこうよ! 青年諸君!」君が青研のリオネル・メッシだ!?と題しまして、エクササイズ、バスケットボール、フットサルを行いました。本事業は川口会長の本年度のテーマの一つである「健康」をキーワードに铸物

青研様からもご参加をいただき、両青研合わせて二十九名にて開催されました。当日は日頃の青研活動では見ることでできない華麗なプレーや、日頃の運動不足がたつたの珍プレーが続出した。また懇親会も含め铸物青研様との交流もより深まる



とともに、今後我々が避けては通れない「健康問題」について考える良い契機になったものと思います。設営の不手際がありご参加いただいた方々にご迷惑をおかけしましたことを、この場をお借りしましてお詫びいたします。

参加者 中越铸物青年研究会 九名

長岡鉄工業青年研究会 二十名

(佐藤 大樹)

●屑鉄集め

九月二日に、ボランティア事業として屑鉄集めを実施しました。青研参加者二十九名、協力会社二十四社にて、五班に分け回収等を行いました。OBの方々を含め、多くの企業から、ご寄付を頂き、屑横山鋼鉄店様の協力を得て換金させて頂きました。まだ不況の最中、八十万を越える金額を得ることができました。これも一重に、ご理解、ご協力を頂いた、協力企業様、及び回収作業を行って頂いた青研会員の皆様のおかげです。二月二日に、長岡市内の福祉施設に、クリスマス



プレゼントの形にて、寄贈させていただきました。このボランティア事業を継続して活動できるように、来年度以降も皆様のご参加と、ご協力をお願いしたいと思います。

内訳 八〇二、八九七円

収入
施設への品物贈呈
柿が丘学園様 一六二、八八九円
双葉寮様 一九八、〇四〇円
もみの木工房様 一九五、三〇〇円
屑鉄基金への貯蓄 二四六、六六八円
参加者 二十九名(猪爪 眞貴)

●鉄工青年研究会OBとの交流ゴルフコンペ

十月十日(日)に鉄工青研OBとの交流ゴルフコンペを長岡カントリークラブにて開催しました。当日は天候にも恵まれ寒くも暑くもなく快適にプレーできました。各組に、お一人ずつOBに入って頂き楽しく交流を深める事が出来たと思われれます。懇親会及び表彰式におきましては、お忙しいところ仕事後に駆けつけて頂いた方々と合流し盛大に開催する事ができました。

参加者 ゴルフ 三十名
懇親会 三十二名
優勝者 春山 博
(大宮 丈範)

お祭り委員会

委員長 西尾 覚

平成二十二年八月一日(日)、長岡祭まつり前夜祭・神輿渡御に参加いたしました。実に当会として十七回目の参加となる本年は、飛び込み参加の方を含めると総勢百余名での神輿渡御となりました。長岡まつりでは当会のみとなる纏(まとい)の演舞、そしてステンレスの輝き

が異彩を放つ神輿の存在感、そして参加者一丸となった神輿渡御によって、鉄工青研の名を広くアピールすることができたと考えております。連日の猛暑の中、何事もなく無事に終えることができました事は、神輿渡御にご参加・ご協力いただきました皆様のおかげと感謝いたしております。

最後になりましたが、OB会員および関係各位より頂きました協賛金により、高張提灯や纏演舞者用の法被を新調させていただきました。いまだ先行き不透明な経済状況にも関わらず変わらぬご支援いただきましたこと、また神輿渡御当日にお心遣い、お声掛け頂きましこと、重ねて御礼申し上げます。来年の長岡まつり神輿渡御参加に際しまして、特段のご協力を賜りますようお願いいたします。

参加者 九十一名



ものづくり委員会

委員長 塚 淳

郷土長岡はものづくりの町、ものづくりによって発展し、そして今日長岡の「ものづくり」に携わる青年達の学びの場が、長岡鉄工業青年研究会であります。いわば「ものづくり」なくしては語れない団体であると言えます。今日、ものづくり産業といえば、リーマンショック以降、一時的な景気回復はあるものの、諸外国の対等や、円高が進

み、依然として不透明で楽観視出来ない危機的状況にあると言っても過言ではありません。

状況は日々刻々と変化しています。我々は今どこに軸を置き、どこに進むべきかを今一度見定め、そのスピードにどう反応し、どう対応するか、今まさに時代は我々に生き残る資格はあるか問いかけているのではないのでしょうか。

しかし我々には、その時代時代により求められる物は違えど、先人達から脈々と受け継がれてきた「ものづくり」への熱き情熱、そして絆があります。それが今日ある、長岡のものづくり産業を支えてきた大きな礎であったのではないのでしょうか。

本年度のものづくり委員会では、郷土長岡のものづくりを後世へと受け継ぐ為『ものづくり』を念頭に、未来の長岡を担う次世代、次々世代へ「ものづくり」を継承、伝播するとともに、産学連携を推進し更なる産業の変化に柔軟な対応の出来る人材育成を行って参りました。

今を生きる我々が今後どのように産業会を生き抜いて行くか、そしてものづくりの未来を考える為にも、この一年間は本当に良い機会となりました。

最後に会長をはじめとする役員、会員の皆様方、そして何よりもものづくり委員の皆様方、一年間本当にありがとうございました。

● 第一回若手研究者交流会

【日時】平成二十二年五月二十八日(金)

【場所】棟瓦亭

今年度は長岡技術科学大学の武田先生、倉橋先生、入江先生、菊池先生の四名をお招きし、日ごろの研究を発表していただき、交流を深めたいと考えました。

しかし、準備不足で当日プロジェクトが動かず、先生の研究発表が出来なくなり、急遽、青研会員の会社PRになりました。この場をお借りして、会長以下、会員の皆様にお詫びいたします。親睦会の方は二十八名の会員の皆様にご参加いただき、大変盛り上がり、先生方との交流も深まったと思います。ありがとうございました。

参加者 二十八名

ものづくり委員会 担当：小沼 啓

● 『ものづくり体験教室』

平成二十二年十一月二十七日(土) 長岡歯車製作所・資料館 長岡電子(株)に会場をお借りして『ものづくり体験教室』を開催させて頂きました。

皆様のおかげをもちまして、当日は、予想を遥かに上回る多くの子供たちに『ものづくり体験教室』楽しんで頂く事ができ、無事に終わる事が出来ました。本当にありがとうございました。

私たちが幼いころ父の背中を見て『ものづくり』を感じ現在に至るように『ものづくり体験教室』を通じて、子供たちが目で見て、耳で聞いて、体で触れてみて、そして感じ、その魅力が思い出として心の中に刻まれる事で、将来この経験をものに『ものづくり』という分野に足を踏み入れてくれるとするならば、そこではじめて『ものづくり体験教室』が成功だったと言えるのではないのでしょうか。



最後に長岡のものづくり、そして長岡鉄工業の発展を祈念の

たしましてご報告とさせて頂きます。ものづくり委員会 委員長 堺 淳

● 第二回若手研究者交流会

平成二十三年一月二十一日(金) 長岡技術科学大学(テクノインキュベーションセンター)におきまして、第二回若手研究者交流会を行いました。産学官連携コーディネーター

品田 正人氏

長岡技術科学大学より

磯部 浩巳 准教授 菊池 崇志 准教授 入江 博樹 准教授

以上の三名と鉄工青研より九名の参加により若手研究者皆様方の研究室に御邪魔し、実際の研究実験を拝見させて頂きました。実際に研究内容としては、実に高度な研究をなされており今後の鉄工業、産業界に大きく貢献されて行くものと思われました。

又、研究室拝見後行われた意見交換会では、様々な質問内容等有り今後の長岡鉄工業青年研究会及び、各企業と長岡技術科学大学とのより一層の連携関係が結ばれる意見交換会となりました。今後「若手研究者交流会」の事業を通じより一層の長岡技術科学大学との交友関係を築くと共に各企業の発展が期待出来るものと思われまます。

担当：皆川 政夫

四十周年準備委員会

委員長 加納 孝樹

今年度の四十周年準備委員会では、いよいよ次年度に迎える鉄工青研四十周年

を円滑に迎えるために、準備業務を進めてきました。

● 記念式典、懇親会

二〇一一年十一月十一日、一が六つ並び日に記念式典、懇親会をニューオーター二長岡で開催することになりました。懇親会では「大同窓会」をイメージし多くのOBから参加して頂けるよう企画をしております。

● 四十周年プロジェクトチーム

四十周年記念事業を円滑に進めるため、次年度三役、各委員長を中心にプロジェクトチームを結成しました。チームでは次年度各委員会での記念事業について、委員会の垣根を越え議論をし、計画して行きます。

すでに、次年度のものづくり委員会では、後継者育成の意味も含め、「鉄工業の未来を見据え子供たちに興味を持ってもらう」をテーマとし、実際に子供たちが操作し製品が出来上がる「做い旋盤型の装置」を作成すると決定し始動しております。

● 四十周年マーク

青研四十周年の各種案内の中に、神輿渡御での「青研法被」をイメージしたマークを入れ統一感を出して行きます。



いよいよ、四十周年YEARが幕を開けます。皆様の協力が無くして成功する事が出来ません。力を合わせて頑張りましょう。

平成23年度 長岡鉄工業青年研究会組織図

総務委員会 10名 (担当副会長 加納 孝樹)

委員長	佐藤 康一	藤波 博繁	保川 誠朗	川板 高志	矢尾 隆	加納 孝樹	小宮 山	林下 村	史玲	幸子 誠	永松	井崎 孝	宏彦	明彦
副委員長	久古	難保	久保	古川	矢尾									
委員														

研修委員会 10名 (担当副会長 小西 統之)

委員長	佐藤 大樹	藤宮 文範	大田 剛士	川繁 樹	木政 男	小西 統之	沼本 若	沼本 月	啓太郎 孝	塚町 裕	永隆	淳弘
副委員長	大石 高皆	大石 高皆	大石 高皆	大石 高皆	大石 高皆							
委員												

実行委員会 9名 (担当副会長 安藤 学)

委員長	毛利 聡一	利竹 啓一	爪爪 眞和	川島 洋	安藤 学	小笠原 昭	原 秀	中 秀	中 秀	中 秀	中 秀	中 秀	中 秀	中 秀
副委員長	大猪 富真	大猪 富真	大猪 富真	大猪 富真										
委員														

ものづくり委員会 9名 (担当副会長 加納 孝樹)

委員長	山口 良和	山口 宣明	池内 克徳	反町 惣夫	前田 信也	加納 孝樹	河田 中	田 中	一 智	優也 永	真永 保	保井 哲	行幸
副委員長	山崎 内	山崎 内	山崎 内	山崎 内	山崎 内								
委員													

まつり委員会 9名 (担当副会長 小西 統之)

委員長	多田 雅彦	安田 英生	小川 友幸	橋本 祐一	渡辺 潤一郎	小西 統之	永井 敏	乙彦 行	西松 尾	尾田 勇	覚介
副委員長	安田 英生	安田 英生	安田 英生	安田 英生	安田 英生						
委員											

会計 杉田 健・藤田 修

会計監査 矢尾板 一 樹・山本 康平

直前会長 川口 秀和

会長 久保 雅宏

副会長 加納 孝樹
小西 統之
安藤 学

新入会員の紹介

平成22年度入会

松崎 孝彦 (株)新潟竹内ハガネ

TEL 〇二五六一六三二二二七
FAX 〇二五六一六二四一八一
昭和四十七年十一月一日生

平成23年度入会

(平成二十三年四月一日現在)

久保 誠朗 (株)久保誠電気興業

TEL 〇二五八二四一七五二二
FAX 〇二五八二四一七四五二
昭和五十年十月二十二日生

高木 繁樹 (株)タカキ

TEL 〇二五八二四一四一五〇
FAX 〇二五八二四一四一〇二
昭和五十三年八月二十二日生

祝ご卒業

小笠原清人 (有)小笠原機械製作所

金澤 誠 (有)金沢精機

近藤 由隆 (株)近藤鉄工所

高坂 隆一 (有)高坂鉄工所

永島 浩 (株)永島工機

原 雅宏 (有)原福鉄工所

(以上六名)